



結核の患者さんと接触のあった方へ  
**QFT 検査又はT-SPOT検査(血液検査)を受けましょう**



結核は、結核菌を吸い込むことによって「感染」し、そのうち10人に1～2人程度の方が主に1～2年の間に「発病」すると言われています。この「感染」を見つけることが、「発病」の予防や早期発見につながります。

◇QFT検査(T-SPOT検査)ってどんな検査？

結核菌に「感染」しているかどうかを調べる血液検査です。

これまで結核の接触者健診は、ツベルクリン反応検査、胸部エックス線検査などを行っていましたが、QFT 検査(T-SPOT検査)という新しい検査により、結核感染の診断をより正確に行えるようになりました。

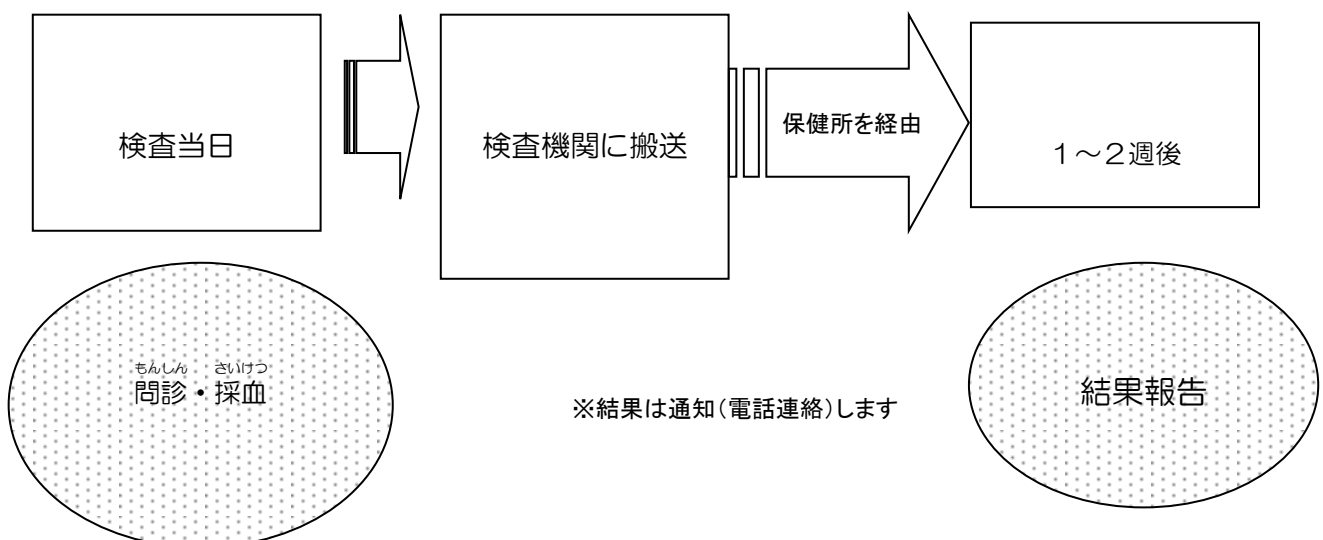
◇検査の対象となるかたは？

保健所長が必要と認めた方を対象とします。

◇検査の時期と進め方は？

最後の接触からおよそ8週以上経過してから検査を実施します。

感染成立から血液検査に反応が現れるまでに、8～12週程度かかります。



◇検査の結果は？

検査結果の判定は

**「陰性」・「陽性」・「判定保留」・「判定不可」です。**

年齢や個人の免疫低下にかかわる病気等により結果に影響する場合があります。

感染リスクの度合いを考慮し、総合的に判断するため、必要な人には胸部エックス線検査を行います。

◇「陽性」「判定保留」の場合は・・・

結核の「発病」の有無を胸部エックス線検査でチェックします。

胸部エックス線検査で「所見なし」の場合は「**潜在性結核感染症**」\*として「発病」を予防するための治療が必要となります。

\*「**潜在性結核感染症**」とは、結核菌に「感染」しているが、結核を「発病」していない状態をいいます。

胸部エックス線検査で「所見あり」の場合は「結核」の発病が疑われます。結核と診断された場合には、結核の治療が必要となります。